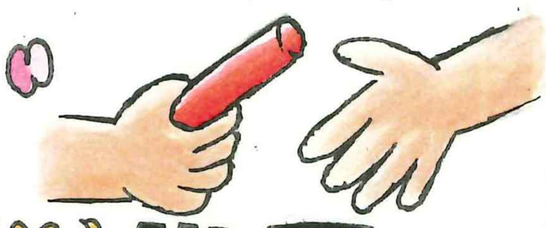
臨海物語

令和7年9月1日
発行横浜市立
老松中学校
「臨海物語」
3年根原煌
3年笠嶋蒼翔
3年笹川敬司

繋げ！横浜(と)TO世界

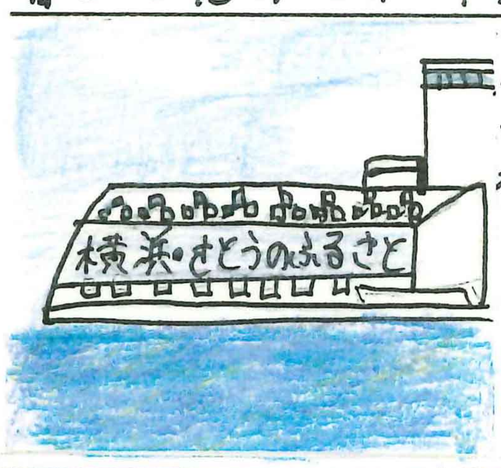


ふるさとうのふるさと?!

記者講習会で横浜港をクルーザーに乗って見学しました。見学している中で大きく「さとうのふるさと」と書かれたものが印象的でした。周りは海、港であることを考えれば「塩のふるさと」で好ないかと疑問に思っていました。

その疑問をもち、横浜港を見学していると、たくさんの船の行き交う様子や、数多くのふ頭が目に入りました。そこで私は、横浜が開国したときのことを想像し、他国との貿易や横浜が発祥のアイスクリームなどが関係しているのではないかと考えました。調べたところ、1997年5月に塩水港(精糖)横浜工場内に企業博物館の開館。江戸時代に、徳川吉宗から命を受けた神奈川宿と川崎宿の住人が和糖を製法を確立したこと、開港以降の砂糖の輸入の中心地であったことから、「横浜・さとうのふるさと館」と名付けられたようです。

横浜港の一つ一つに細かい歴史が詰まっていう事が分かりました。横浜港に砂糖の歴史ありですね。



夢を載せた

今回見学して「横浜港全国第2位となっていには、本当に多くのコンテナがあるな」と感嘆の声を上げました。コンテナについて調べてみると、主に一般的なドライコンテナと冷凍・冷蔵品を扱うリーファーコンテナがあるとわかりました。

横浜のコンテナ貨物取扱量は東京港に続き2位となっています。(2023年時点) なお、写真のコンテナ船ですが横浜港が重要拠点であるコンテナ船以外にも自動車専用船と言うのもあり、多くの自動車の輸出が行われているようです。日本の産業の約2割を占め、全国第3位

コンテナ船の様子

ふ頭が生み出す経済の発展とは?!

ふ頭は貨物の荷積みや荷下ろしを行う場所です。横浜港には大黒ふ頭、新港ふ頭、山下ふ頭、本牧ふ頭、南本牧ふ頭があります。では、この横浜港のふ頭はどのような経済効果をもたらしているのでしょうか。

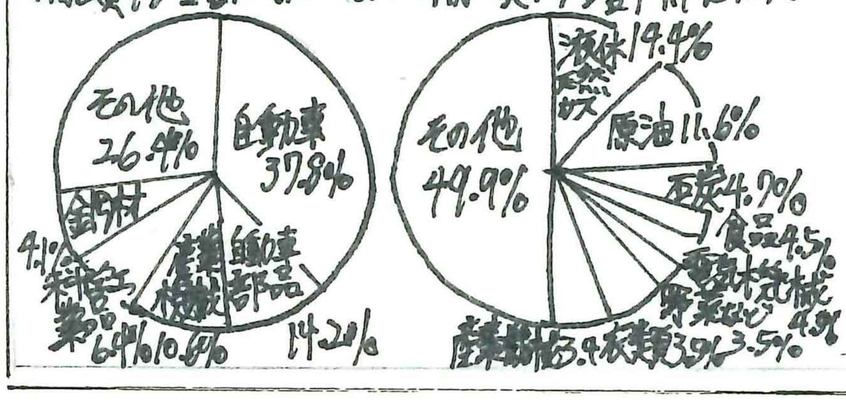
船舶での輸送では自動車や電子機器、天然ガスや穀物など大きく重いものを運んでいます。また、貿易額は全国3位、クルーズ客船寄港回数は全国1位であり、日本に大きな経済効果をもたらしていると考えられます。

現在、世界的にコンテナ船の大型化が進んでいて、それに伴い横浜港でも改良が行われているため、今後、さらなる経済効果が期待できると思います。

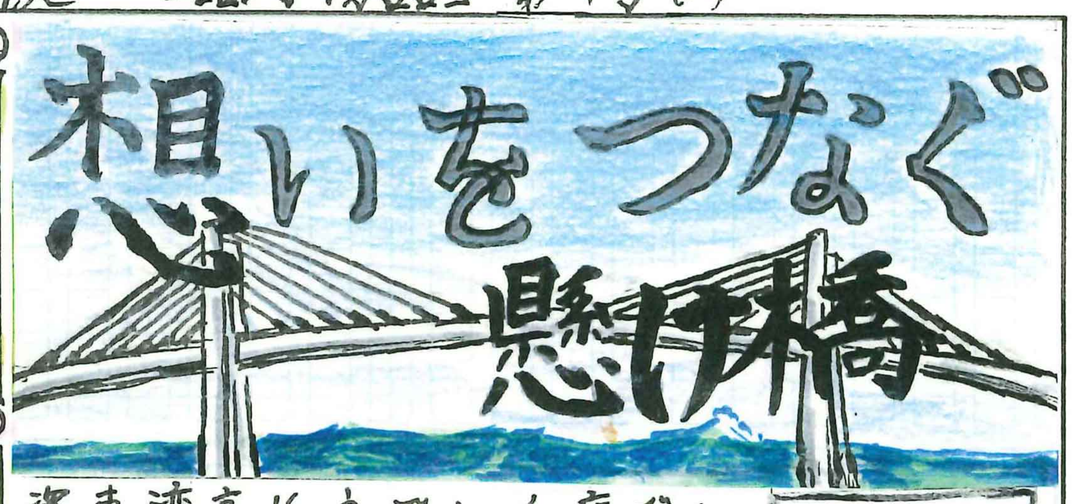
私は実際にふ頭での活発な貨物の取扱いや大規模な船舶を見てふ頭の与える影響力を実感しました。みなさんも機会があれば是非ご覧ください。

みらいの港に期待だい!

日本を代表する貿易港の一つである横浜港は、総事業費380億円で作られています。完成したら海抜マイナス18メートル岸壁100メートルの大きさのふ頭ができる予定です。それにより、海上輸送が特に本牧ふ頭は、多数の荷役に対応しています。しかし、海上輸送品の多様化により水深のある埠頭が必要となりました。そこで本牧ふ頭の先に、現在新本牧ふ頭を建設しています。令和10年度完成予定であるふ頭が生まれました。さらに大きなふ頭の完成から目が離せません。



想いをつなぐ懸け橋



新たな観光地

京浜工業地帯の一部である川崎港では、倉庫業をはじめとする多くの企業が立ち並んでいます。川崎港が日本で約100ある港のうち国際競争力の強化に重要で最もランクの高い5港の国際戦略港湾の一つです。現在、東扇島と内陸部との物資輸送をよりスムーズに行うために、また、東扇島で働く人の通勤混雑緩和のために東扇島水江町線という橋を建設中です。

今回この東扇島水江町線の建設現場を訪れ現場の方から話を伺いました。そこでわかったことは、この橋は経済効果だけではなく防災機能強化にも大きくつながるということです。東扇島で大規模地震などの災害が起こったときに、被災地や内陸部に物資を運搬するための輸送経路の複数化が期待できます。

完成予定は令和10年頃です。事業計画では夜間ライトアップの他に遊歩道が作られる予定です。新たな観光スポットになることが期待できます。

橋はしからはしまで調べてみた

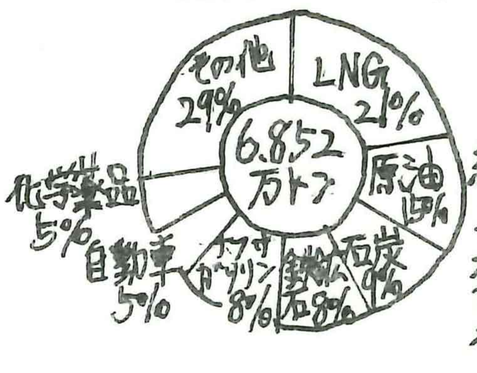
現在建設中の東扇島水江町線の様子

川崎港・横浜港

神奈川県を代表する港には、横浜港と川崎港があります。

川崎港には、発電施設や化学関連産業が多くあり、天然ガスや原油などの材料が多く取り扱われています。特にガソリンの燃料となる原油の輸入量は全国第5位です。川崎港は、私達の生活に必要な電気やガソリンを輸入し、首都圏の大きな支えとなっています。

横浜港には、自動車に携わる機器のやり取りが行われています。横浜港の自動車輸出金額と台数が共に全国第3位です。今後輸出品目の中心が変化することも考えられますが、いずれにせよ、日本を代表する港に間違いないと思います。これからの、横浜・川崎に注目しましょう。



→川崎港で取り扱う貨物の内訳(令和6年度のデータ)

川崎港がもたらす経済効果

現在、東扇島から水江町にかけて橋の建設が行われています。東扇島地区と内陸部との接続により、物流機能や防災機能が強化されることが期待されています。横浜港にあるベイブリッジ、鶴見つばさ橋と規模を比較してみると、支間長が52 5m になる予定で一番長いことが分かります。支間長の長さが長いことにより、景観の向上や大型船の通過も入ーズになります。主塔の高さは一番低いですが、斜張橋のケーブルの角度が小さくなっていて、このためケーブルの張力が一般的な斜張橋より増化します。

私たちは、実際に建設現場に行き、建設中の水江町線に登って見学をしました。実際に横浜港や、水江町の景色を見て、この橋が完成したら物流が発展していくと感じ、ワクワクしました。橋の完成がとても楽しみですね。

橋の完成まで、あと3年。でき上がり待ち遠しいです。

物流を支えるケーブル

川崎港臨港道路東扇島水江町線は東扇島地区と内陸部を結ぶ全長3キロメートル、計画で交通量は1日3400台もの車両が通る予定です。

港湾しょうめ。まず、高強度ケーブルが使われていることが特徴です。それは、羽田空港周辺の高さの規制としてみつの橋の支点間が同じ橋よりも低くなり、ケーブルの角度が小さく大きな張力が必要になるためです。私はその東になったケーブルを見ていつも橋を通るときに見るケーブルの頑丈さに驚きました。部品が物流を支えていますね。

KOKI

見学を通して川崎港と横浜港は首都圏の生活を支える重要な港だと知ることができました。この学びを生かし新聞を制作しました。是非読んでください。

2025年 盛夏